

＜アイヌ文化保全対策調査＞

2010(平成22)年度
調査報告

北海道 平取町
アイヌ施策推進課

アイヌ文化環境保全調査室

< 地域文化調査の概要 >

2010(平成22)年度 調査報告

業務分野

1	精神文化保全対策に関する調査	
2	生物の生存環境現地調査	
3	(1)	生活文化現地調査 川洲畑現地調査
	(2)	生活文化現地調査 伝統的漁法調査
4	地域文化保全対策普及調査	
5	有用植物移植試験及びモニタリング調査	

■作業グループ編成

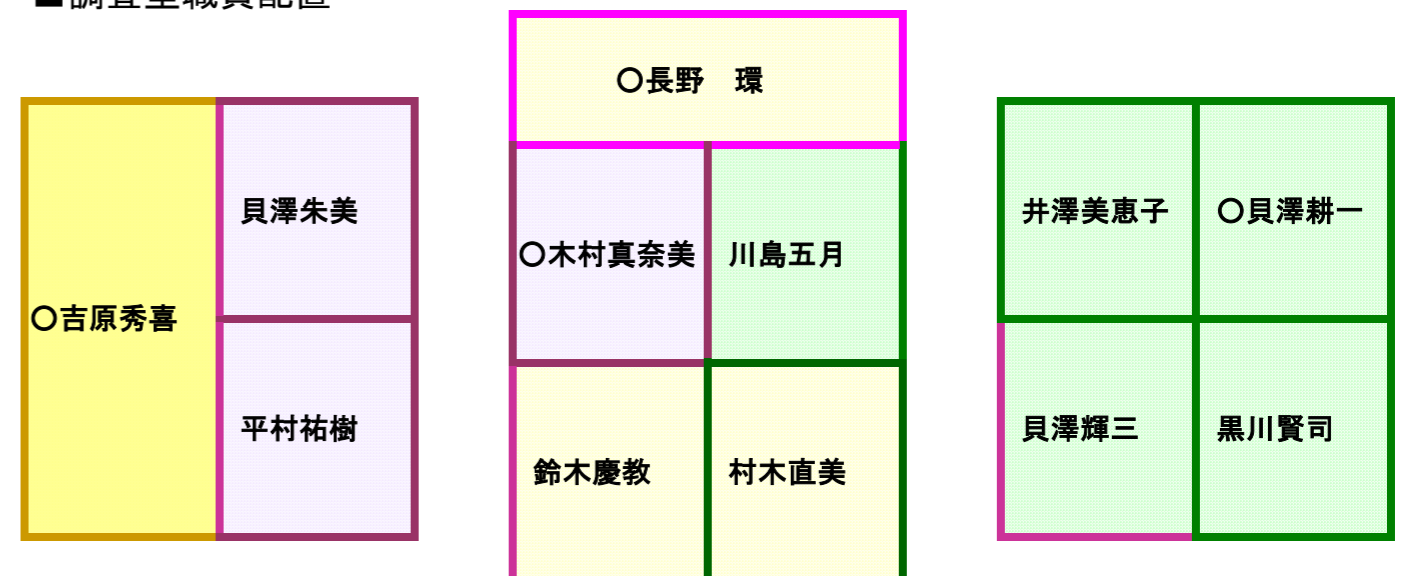
グループ名	スタッフ(調査業務員)氏名			
総務グループ	○長野 環 〈業務指導員〉	鈴木慶教 (川島五月)	村木直美 (貝澤輝三)	◆吉原秀喜 〈主幹・学芸員〉
現地グループ	○貝澤耕一 〈業務指導員・相談役〉	井澤美恵子 黒川賢司	貝澤輝三 (平村祐樹)	川島五月
情報グループ	○木村真奈美 〈業務指導員〉	貝澤朱美 (鈴木慶教)	平村祐樹	

■業務分野担当

番号	調査内容	主担当	副担当	担当グループ
1	精神文化保全対策に関する調査	◎長野 環	○貝澤輝三	総務G
2	生物の生存環境現地調査	◎川島五月	○井澤美恵子	現地G
3-(1)	生活文化現地調査; 川洲畑現地調査	◎井澤美恵子	○村木直美	現地G
3-(2)	生活文化現地調査; 伝統的漁法調査	◎貝澤耕一	○貝澤輝三	現地G
4	地域文化保全対策普及調査	◎木村真奈美	○鈴木慶教	情報G
5	有用植物移植試験及びモニタリング調査	◎貝澤朱美	○平村祐樹	情報G

◆現地作業指導=貝澤耕一 ◆データベース管理統括=長野 環
◆コンテンツ編集統括=木村真奈美 ◆庶務・安全指導=川島五月 ◆ISO推進=貝澤朱美

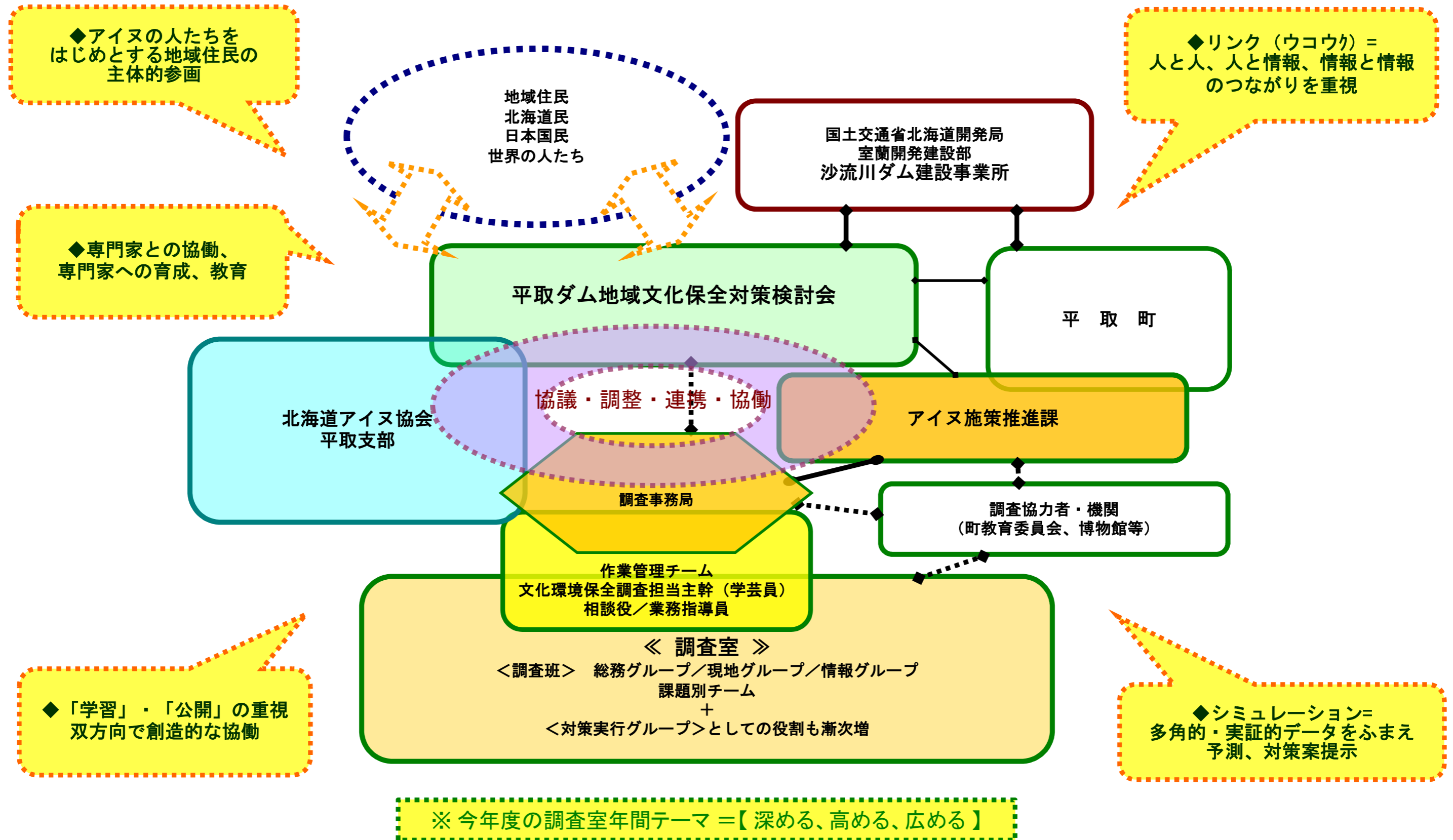
■調査室職員配置



アイヌ文化情報センター内
アイヌ文化環境保全調査室

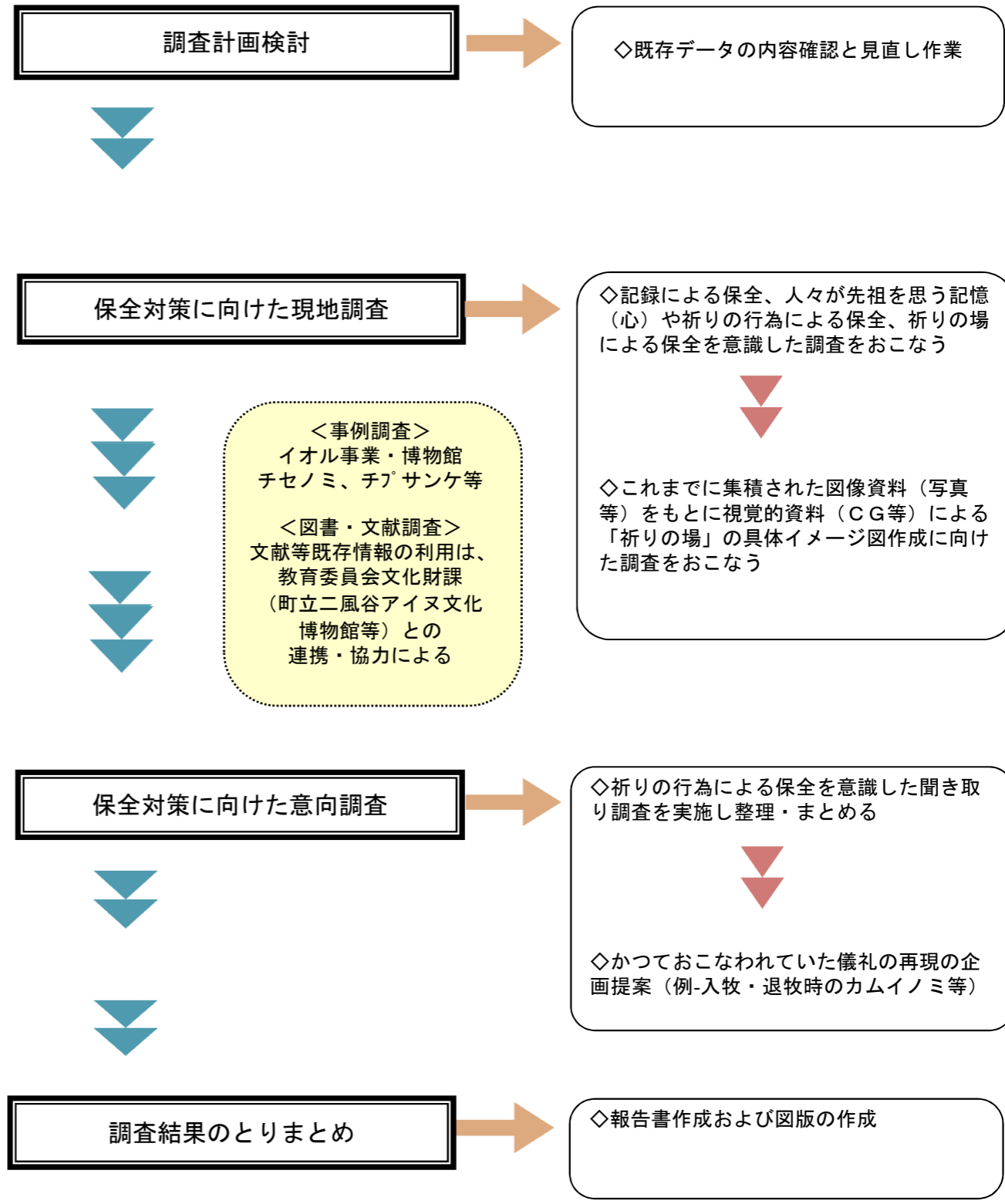
(〒0555-0101平取町二風谷61番地)

■アイヌ文化環境保全対策事業の体制概念図 (平成22年度)



事業名	平成22年度 地域文化調査事業												
業務分野	1 - 精神文化保全対策に関する調査												
目的/課題	◆精神文化の保全対策に必要な現地調査を実施する。また、調査内容について、地域の関係者の意向を確認し、結果をとりまとめる。												
業務項目と内容・方法	①【現地調査】 精神文化保全対策に必要な現地調査の実施 ②【意向調査】 調査結果及び保全方針について、地域の関係者の意向を確認 ③【調査結果取りまとめ】												
想定する成果(状況/物品)	①→ 保全対策の提案書、設計図書・工程表・関連データ ②→ ヒアリング開催と結果集約・分析 ③→ 報告文・図版 ※○内の数字は上の欄に対応												
年間作業工程(行程)概要	業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	◆調査計画検討	→											
	①【現地調査】	→											
	②【意向調査】	→											
	④【調査結果取りまとめ】	→											
作業工程(行程)上の留意事項	各担当チームごとにより詳細な作業計画・工程を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。また、他分野・担当チームとの連携・協力を努める。アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受発信と、各種文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力を努める。												
主担当	◎長野 環 総務グループ												
副担当/担当	○貝澤輝三 鈴木慶教/平村祐樹												
【成果まとめ】	A◆現地調査などにより、精神文化保全対象地に関してこれまで蓄積した情報を拡充した。その成果を「イオル文化大学」「博物館セミナー」などを通じて普及するよう試みた。 B◆「意向調査」に関しては、道路・橋梁工事の進展により実際に生じた対策上の問題に即応して、当事者性の強い関係者の意向・意志確認を先行しつつ、調整の役割をになった。儀礼的行為について、その円滑な実施を図るべく、準備や支援の作業をにない、有意義な「試行」の機会とした。また、今後の精神文化保全対策に活かすために、一連の協議や「試行」過程等を詳細にとりまとめた。 C◆開発事業に伴って行う精神文化保全に関するこうした試みは、従来の文化研究・振興の諸活動には例がほとんどなく、今日的継承のあり方の貴重な先行例となり得る。												

◇◆H22年度、1-精神文化保全対策に関する調査計画◆◇



1-精神文化保全対策に関する調査の実施状況



手がかりにしたい
アイヌ語

アイヌ

◆アイヌ/アイヌ(フ) 【aynu/ aynu (hu)】

- ①人間, 人(神に対しての人間)。
- ②アイヌ民族, アイヌ人(和人やその他の民族に対しての)。
- ③成人男子。*稀に成人女性を指す場合もある。
- ④父(他人からその人の父を指す)。
- ⑤夫(他人に対して妻から夫を指す)。

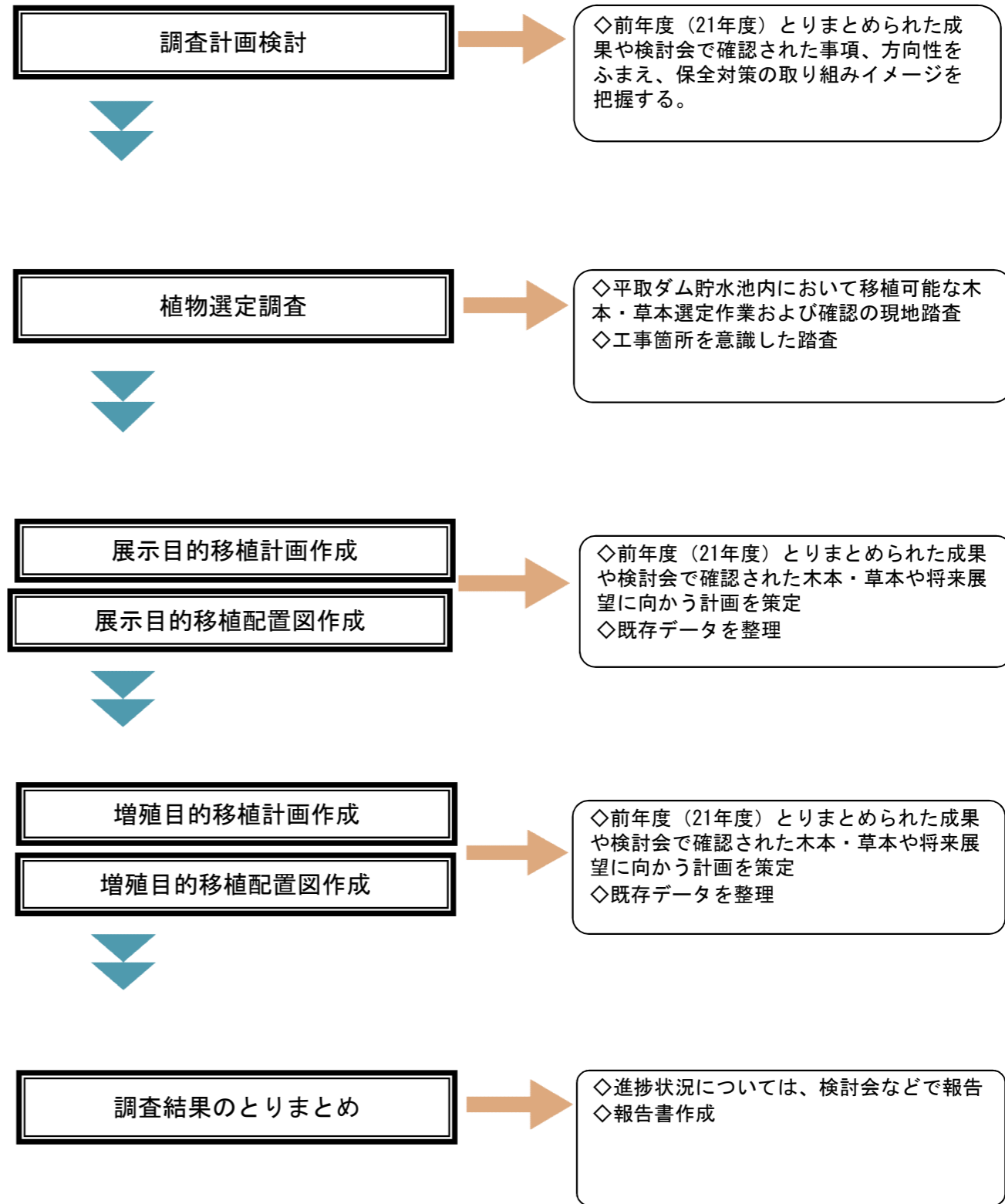
◆アイヌネノアンアイヌ 【aynu neno an aynu】
人間らしい人間。

- ▷ アイヌ=人間
- ネノ=らしく
- アン=ある
- アイヌ=人間

+++『萱野茂のアイヌ語辞典』三省堂より+++

事業名	平成22年度 地域文化調査事業												
業務分野	2 - 生物の生存環境現地調査												
目的/課題	◆アイヌ文化に有用な植物の具体的な保全対策案に基づき、優先度を考慮し、詳細な整備計画を策定する。												
業務項目と内容・方法	①【植生保全計画策定】 植生保全35区域について、優先度の高い植生モデル区域S-05を中心に、移植箇所、種類等の詳細な整備計画を策定 ②【調査結果取りまとめ】												
想定する成果(状況/物品)	①→ 計画書と設計図書・工程表・関連データ ②→ 報告文・図版 ※○内の数字は上の欄に対応												
年間作業工程(行程)概要	業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	◆調査計画検討	●→											
	①【植生保全計画策定】	●→											
	②【調査結果取りまとめ】												
作業工程(行程)上の留意事項	各担当チームごとにより詳細な作業計画・工程を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。また、他分野・担当チームとの連携・協力を努める。アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受発信と、各種文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力を努める。												
主担当	◎川島五月 現地グループ												
副担当/担当	○井澤美恵子 貝澤朱美 平村祐樹												
【成果まとめ】	A◆前年度までに取りまとめた調査成果と保全対策の考え方をふまえてS-05区域における「植物保全整備計画」を作成した。 B◆これは、検討会で確認された「主として展示を目的」・「主として増殖を目的」という二つの方向性の内、「主として展示を目的」に重きをおいた計画である。「人間の一生と植物の関わり」を全体の軸にしつつ、儀礼・生活・食用・薬用などのテーマを組み合わせた展示シナリオとなっている。 C◆地域住民が主体となった伝統的な植物利用と分布に関する調査を基礎にして、住民たち自身が主体となって保全整備計画を作成し、本格的な実行段階にいたっているという点で画期的である。												

◇◆H22年度、2-生物の生存環境現地調査計画◆◇



2-生物の生存環境現地調査の実施状況



手がかりにしたい
アイヌ語

モシリ

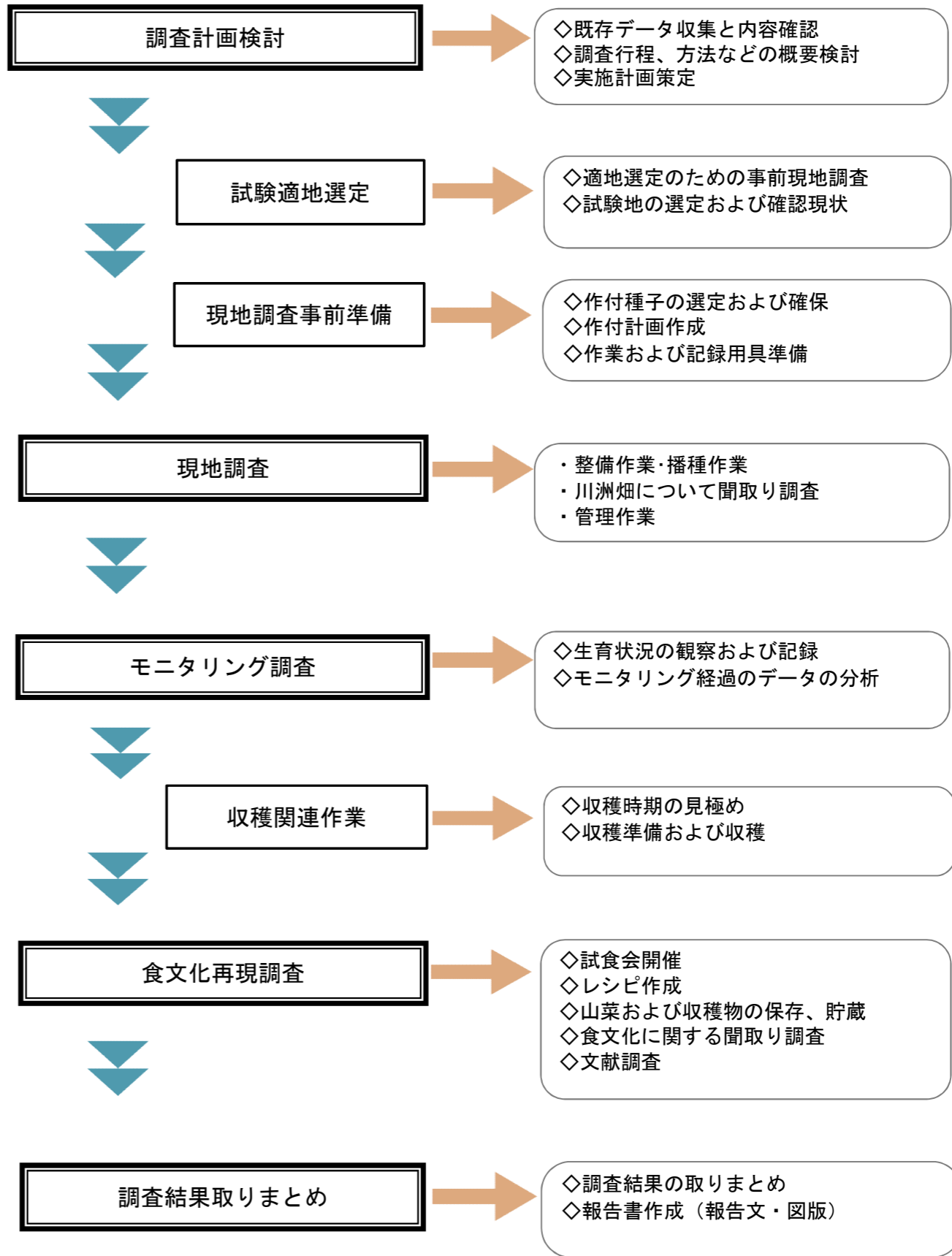
◆モシリ【mosir】 静かな大地,国,国土,島。 ▶モ=静か シリ=大地

アイヌモシリ=人間の静かな大地。

* アイヌ民族は自分たちが暮らしていたこの地（今の呼び名は北海道）をアイヌモシリと呼んでいた。

事業名	平成22年度 地域文化調査事業												
業務分野	3 - 生活文化現地調査 (1) 川洲畑現地調査												
目的/課題	◆アイヌ文化期にかつて行われていた栽培方式(川洲畑)について、栽培様式を伝承する際の基礎資料とするため、試験適地を選定し栽培試験を行う。試験結果に基づき生育状況を把握しデータ蓄積を行うと共に、収穫物を利用したアイヌ文化期の食事など、当時の生活様式の再現を行い調査結果を取りまとめる。												
業務項目と内容・方法	①【現地調査】 現地調査選定箇所の事前準備及び栽培試験 ②【モニタリング調査】 川洲畑現地調査状況把握のためのモニタリング ③【食文化再現調査】 調査結果を基に、実際にアイヌ文化期の食事について再現(調理)												
想定する成果(状況/物品)	①→ 調査を踏まえた実施詳細計画・工程表 ②→ モニタリング経過のデータと分析 ③→ 食文化の再現(試食会開催、レシピ作成・公開) ④→ 報告文・図版												
年間作業工程(行程)概要	業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	◆調査計画検討	●→											
	①【現地調査】	●→	→	→	→	→	→	→	→	→			
	②【モニタリング調査】	●→	→	→	→	→	→	→	→	→			
	③【食文化再現調査】	●→	→	→	→	→	→	→	→	→			
④【調査結果取りまとめ】			●→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
	検討会または勉強会			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
作業工程(行程)上の留意事項	各担当チームごとにより詳細な作業計画・工程を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。また、他分野・担当チームとの連携・協力を努める。アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受発信と、各種文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力を努める。												
主担当	◎井澤美恵子 現地グループ												
副担当/担当	○村木直美 黒川賢司												
【成果まとめ】	A◆地域における伝統的農法の一つであった川洲畑について、4箇所の試験地を設けて試行し、過去3年間の取り組みの蓄積に加えてこの農法継承のための基礎資料を拡充できた。 B◆文献や聞き取りなどによる知見と関連づけて、往時の生活文化や自然環境とそれらの変遷を把握する作業にも並行して取り組んできた。イメージ図や年表などを通じてその成果を示した。また、収穫物などを利用して伝統的食文化の再現を試み、あわせて今日風な料理へのアレンジも多様に試行した。 C◆こうした栽培試験の継続が、栽培方法に関する知見だけでなく、伝統的生活文化全般とその環境に関する情報を集積する場としても有効で、実験民族(民俗)学・考古学・生態学の観点からも効果的な取り組みとなっている。												
A◆成果の概要 B◆その特徴 C◆意義・課題													

◇◆H22年度、3-(1)川洲畑現地調査計画◆◇



3-生活文化現地調査（1）川洲畑現地調査の実施状況



手がかりにしたい
アイヌ語

ハル

◆ハル【haru】 食べ物,穀物,供物。

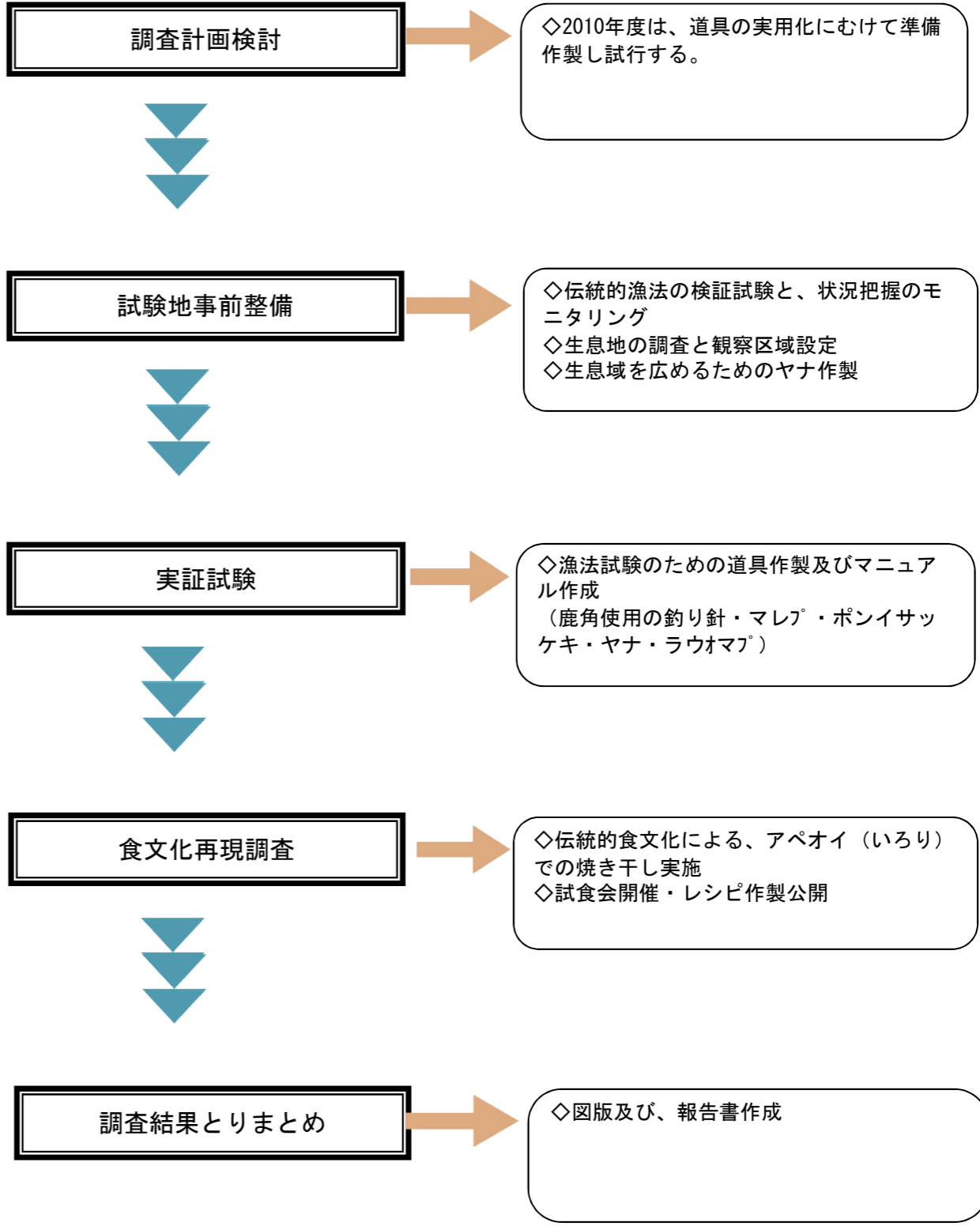
タン パ アナクネ シリピリカ ワ ハルアン ノイネ
ピヤパ カ ムンチロ カアシプ ワ アン
=今年は天候もよかったし穀物も豊作になるらしく、
ヒエもアワも穂が出ていた。

◆ハルアン【haru-an】 豊作である。

◆ハルコロ【haru-kor】 肥えている,太っている。
▷ハル=豆やヒエ・アワなど穀物の総称
コロ=持つ

事業名	平成22年度 地域文化調査事業												
業務分野	3 - 生活文化現地調査 (2) 伝統的漁法についての調査												
目的/課題	◆アイヌ文化期にかつて行われていた伝統的漁法について、伝統的漁法を伝承する際の基礎資料とするために、伝承試験を行い、試験結果を取りまとめる												
業務項目と内容・方法	①【試験地事前整備】 漁法検証試験の実施効率を上げるため、試験箇所付近の植生回復、除草等 ②【実証試験】 伝統的漁法の検証試験と状況把握のモニタリング ③【食文化再現調査】 調査結果を基に、実際にアイヌ文化期の食事について再現（調理） ④【調査結果取りまとめ】												
想定する成果（状況/物品）	①→ 試験地絞り込みと周辺環境の点検・整備 ②→ 漁具作製 記録の保存・分析（モニタリング）とマニュアル化 ③→ 食文化の再現（試食会開催、レシピ作成・公開） ④→ 報告文・図版												
年間作業工程（行程）概要	業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	◆調査計画検討	→											
	①【試験地事前整備】	→		◆法規関係の手続き・調整									
	②【実証試験】	→		←		←		←		←			
	③【食文化再現調査】	→		←		←		←		←			
④【調査結果取りまとめ】			←		←		←		←		←		
	検討会または勉強会			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
作業工程（行程）上の留意事項	各担当チームごとに詳細な作業計画・工程を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。また、他分野・担当チームとの連携・協力を努める。アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受発信と、各種文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力を努める。												
主担当	◎貝澤耕一 現地グループ												
副担当/担当	○貝澤輝三 平村祐樹 村木直美												
【成果まとめ】	A◆サケの特別採捕をはじめ、伝統的漁法を実施するための諸手続や現地環境整備などに、関係者・機関が連携して取り組み、伝承試験を実現できた。 B◆これを通じ、川漁の道具や方法に直接関わるだけでなく、行政的対応のノウハウもふくめた伝統的漁法実施の基礎資料が整い、今後の円滑な展開が期待できる状況になった。 C◆儀礼用のサケ特別採捕だけでなく、サケ・マス以外の魚種もふくめた伝統的漁法について法規上・手続上の諸問題をクリアできたことの意義は大きい。また、外向きの大がかりのイベントではなく、地域古来の家族・小集落単位における生活儀礼という想定で再現などを試みたが、そうしたこだわりがあったがゆえに得られたと思われる知見も多く、地域の伝統を深く探る上で有意義な取り組みとなった。												
A◆成果の概要 B◆その特徴 C◆意義・課題													

◆◆H22年度、3-(2) 伝統的漁法についての調査計画◆◆



3-生活文化現地調査（2）伝統的漁法についての調査の実施状況



手がかりにしたい
アイヌ語

チェブ°

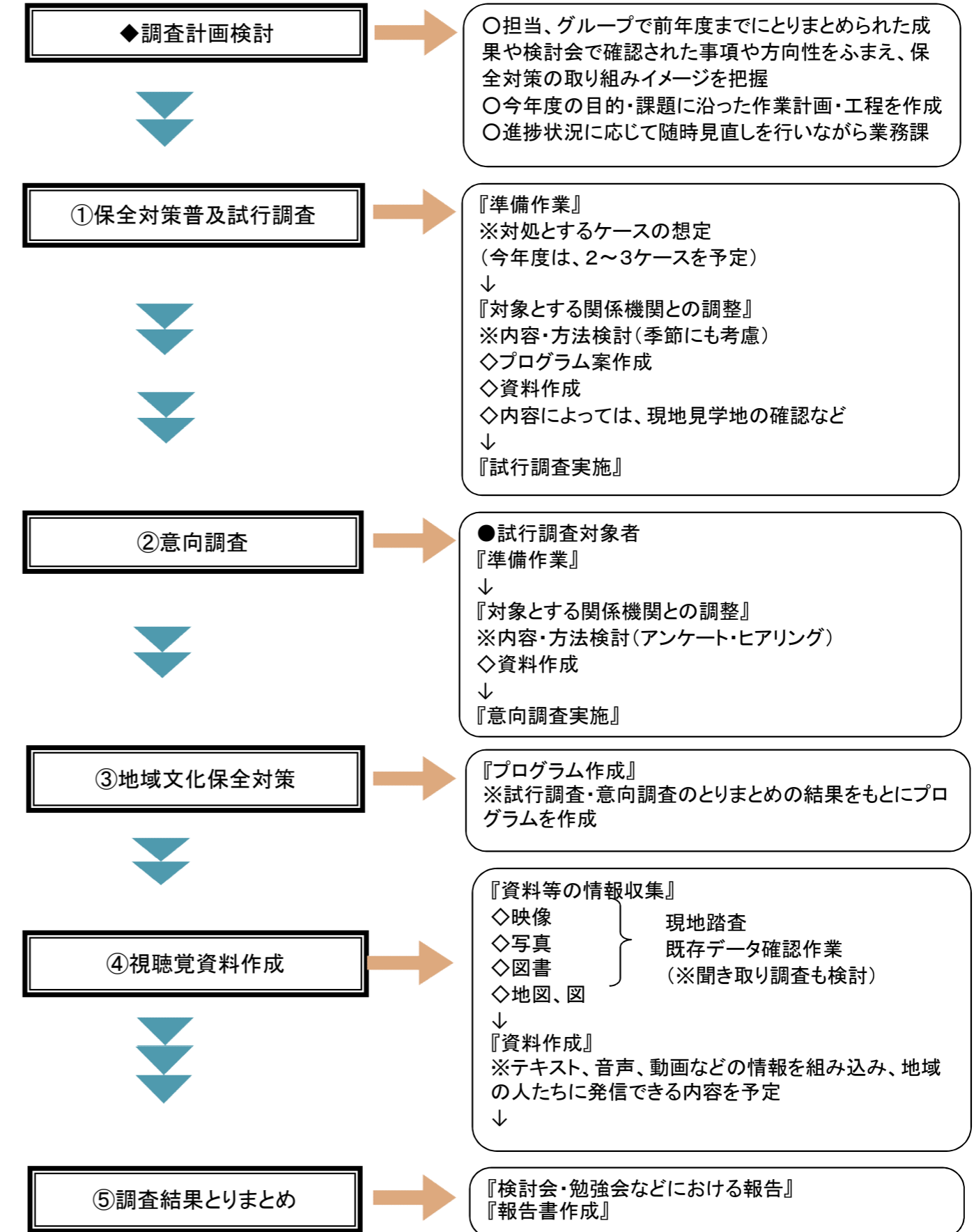
◆チェブ°【c=e-p】 魚。
▷ チ=我ら エブ°=食べ物

◆チェブ°コイキ [cep-koyki] 魚を獲る,漁獲する。
▷ チェブ°cep=魚 コイキ=いじめる

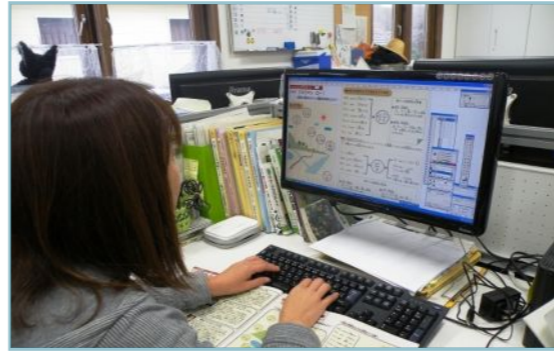
タヌクラン アナクネ アプト アシ ノイネ
シリポプケ カ キ ヘタ チェブ°コイキ クス アラパ・アン ナ
=今夜は雨も降りそうで暖かいし,さあサケ獲りに行くぞ。

事業名	平成22年度 地域文化調査事業												
業務分野	4 - 地域文化保全対策調査												
目的/課題	◆これまでの調査結果を基に地域文化保全対策普及方策として活用できるプログラム、視聴覚資料等を作成する。また、それらを用いて関係機関等（教育機関・自治体関係者等）を対象に保全対策普及のための試行調査を実施し、意見・感想等を収集して調査結果を取りまとめる。												
業務項目と内容・方法	①【保全対策普及試行調査】 既往の調査結果を基に保全対策実施に向けた試行調査 ②【意向調査】 試行調査実施後、調査協力者から意見・感想等を収集し整理 ③【地域文化保全対策普及プログラム作成】 既往調査結果を基に地域文化保全対策として実行可能なプログラムを作成 ④【視聴覚資料作成】 既往調査結果を基に地域文化保全対策として視覚的（映像）資料を作成 ⑤【調査結果取りまとめ】												
想定する成果（状況/物品）	①→ 試行と結果分析 ②→ 意見・感想等の集約と分析 ③→ プログラム・資料の作成 ④→ 映像コンテンツ作成と活用例提示 ⑤→ 報告文・図版												
	※○内の数字は上の欄に対応												
年間作業工程（行程）概要	業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	◆調査計画検討	●	→										
	①【保全対策普及試行調査】	●	→										
	②【意向調査】			●	→	●	→	●	→	●	→		
	③【地域文化保全対策普及プログラム作成】												
	④【視聴覚資料作成】												
	⑤【調査結果取りまとめ】												
	検討会または勉強会			○		○		○		○		○	
作業工程（行程）上の留意事項	各担当チームごとにより詳細な作業計画・工程を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。また、他分野・担当チームとの連携・協力を努める。アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受発信と、各種文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力を努める。												
主担当	◎木村真奈美 情報グループ												
副担当/担当	○鈴木慶教/平村祐樹 村木直美												
【成果まとめ】	A◆これまで蓄積されてきた成果を基礎に、その活用・普及を図るための取り組みを、地域の学校との協力により深化させ、拡充させることができた。これを通じて、中学校の各学年ごとに汎用性あるプログラムと視聴覚資料を作成できた。また、アイヌ協会平取支部や二風谷自治会との協議などを通じ、地域への普及、住民との協力・協働を本格化する足がかりを築いた。 B◆住民であり、調査者でもあるスタッフが、地域の学校教職員との協力により、調査成果を活かした特別授業を試行した。事前・事後の協議、意見・感想の把握などを丁寧に行い、取り組みをより効果的なものとした。 C◆アイヌ文化に関する学校における授業実践の分野で、調査等による最新の知見を活かしながら、担い手（文化継承&調査保全）自らが行う効果的なスタイルを新たに確立しつつある。												

◇◆H22年度、4-地域文化保全対策調査計画◆◇



4-地域文化保全対策調査の実施状況



手がかりにしたい
アイヌ語

カムイ

◆カムイ【kamuy】 ①神。②熊。

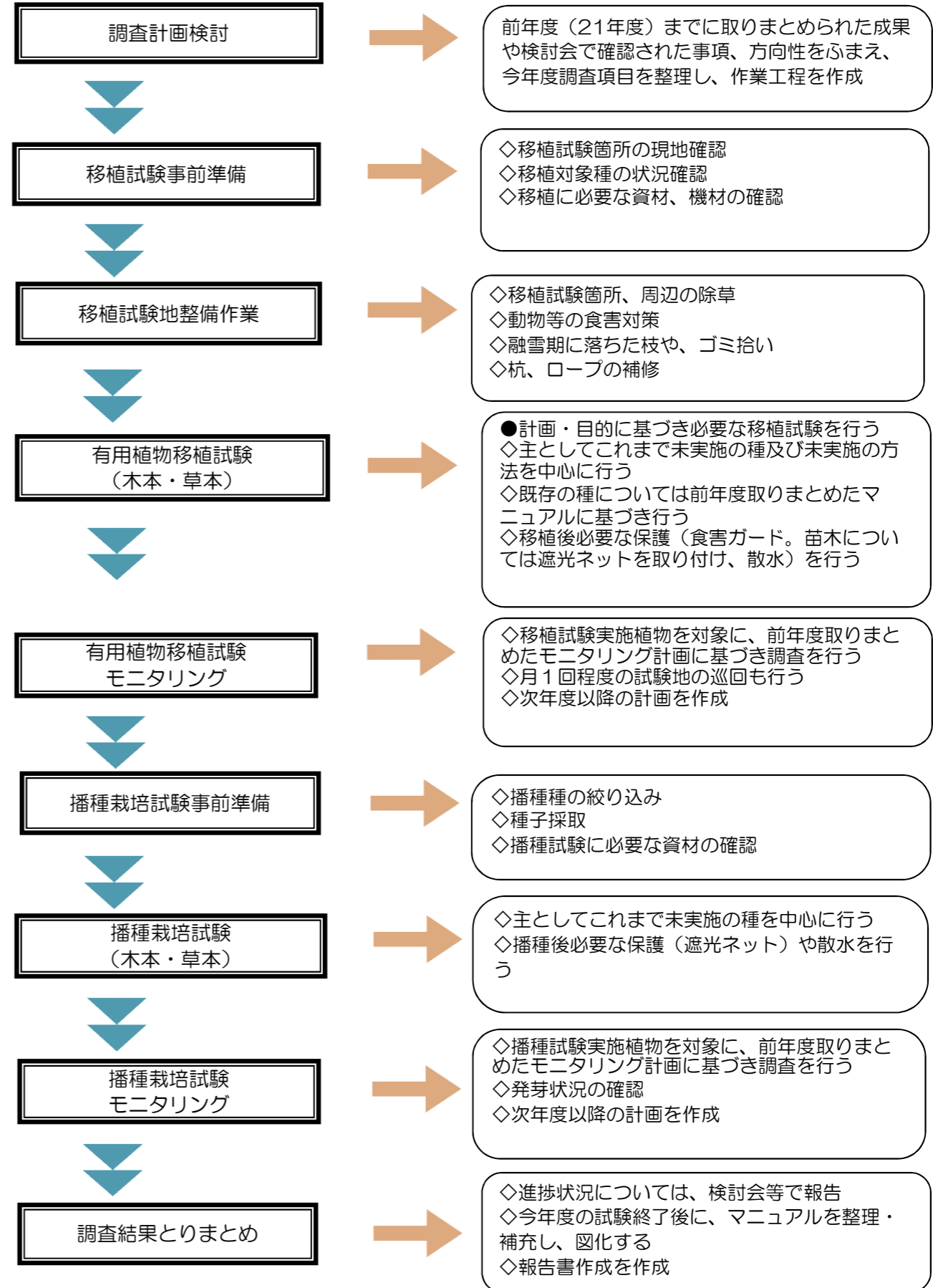
◆カムイピリマ【kamuy-i-pirma】 神のお告げ,神がこっそり教える。

チ・コロ ニフタニ タ アナクネ ペウレプ オッカ ウン チノミシリ
 カンカン レレケヘ チノミシリ オケネウシウン チノミシリ エレプ アン オロウン
 カムイピリマ ハウ ア・ヌ コロコタン エウン ウタラ ヤイトウパレ パ プ ネ
 =私どもの二風谷では熊の姿岩のチノミシリ(我ら祭る所),
 カンカン向かいのチノミシリ,オケネウシのチノミシリ,3か所あって,
 そこへ神のお告げが聞こえたら村人全部が気をつけるものだ。

+++『萱野茂のアイヌ語辞典』三省堂より+++

事業名	平成22年度 地域文化調査事業												
業務分野	5-有用植物移植試験及びモニタリング調査												
目的/課題	◆これまでの調査結果・計画に基づき、有用植物の移植試験及び播種栽培試験を実施する。試験の結果を踏まえ、有用植物の種ごとの移植マニュアル・植物栽培マニュアルを作成する。また、移植及び播種の状況（既の実施している有用植物含む）を確認するためにモニタリング調査及び試験地の整備作業を行うとともに、次年度以降のモニタリング計画案（モニタリング頻度・項目）を取りまとめること。なお、試験実施する種については、調査職員と協議の上決定する。												
業務項目と内容・方法	①【移植試験事前準備】移植試験実施に必要な事前準備（現地確認等） ②【移植試験地整備作業】活着率を上げるため、移植箇所付近の除草、食害防止 ③【有用植物移植試験（木本/草本）】木本・草本の移植栽培試験を行う。 ※主としてこれまで未実施の種 ④【有用植物移植試験モニタリング】移植試験実施植物を対象としたモニタリングとモニタリング計画の整備 ⑤【播種栽培試験事前準備】播種栽培試験に必要な事前準備（現地確認等） ⑥【播種栽培試験（木本/草本）】木本・草本の播種栽培試験を行う。 ⑦【播種栽培試験モニタリング】移植試験実施植物を対象としたモニタリングとモニタリング計画の整備												
想定する成果（状況/物品）	①→ 試験地絞り込み周辺環境の点検・整備 ②→ 周辺環境の点検・整備 ③→ 試験（未実施種中心）過程記録 ④→ 結果分析、マニュアルの補充 ⑤→ 試験地絞り込み周辺環境の点検・整備 ⑥→ 試験（未実施種中心）過程記録 ⑦→ 結果分析、マニュアルの補充 ⑧→ 報告文・図版 ※○内の数字は上の欄に対応												
年間作業工程（行程）概要	業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	◆調査計画検討 ①【移植試験事前準備】 ②【移植試験地整備作業】 ③【有用植物移植試験（木本/草本）】 ④【有用植物移植試験モニタリング】 ⑤【播種栽培試験事前準備】 ⑥【播種栽培試験（木本/草本）】 ⑦【播種栽培試験モニタリング】 ⑧【調査結果取りまとめ】	●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→
作業工程（行程）上の留意事項	各担当チームごとに詳細な作業計画・工程を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。また、他分野・担当チームとの連携・協力を努める。アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受発信と、各種文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力を努める。												
主担当	◎貝澤朱美 情報グループ												
副担当/担当	○平村祐樹 黒川賢司												
【成果まとめ】	A◆伝統文化の観点から有用性の高い植物群について、種ごとの、あるいは育成方法ごとのマニュアルを作成し、試行・モニタリングを積み重ねながら、その充実を図った。また、試験地の整備も行き、今後に向けて保全対策の基盤を拡充した。 B◆マニュアルはさまざまな経験、試行錯誤を経て体裁・内容が充実しつつあり、利用目的に応じて編集をしたパンフなど、多様な形態での情報提供、成果活用が今後は可能となってきた。本年度は、イオル整備など関連諸事業での活用を想定した冊子を試作し参考にした。 C◆伝統文化の観点から有用性の高い植物の育成については、系統性・継続性をもった包括的な取り組みが行われた事例が他にほとんどない。そうした状況のもと、地域住民であり、文化継承の担い手でもある人たちが自ら調査と試行を重ね、それを踏まえて、まず何よりも今後の自分たち自身の作業にとって手引きとなり、関連事業に従事している人たちにとっても参考となるマニュアルなどが形になりつつあることの意義は大きく、さらに充実を図りたい。												

◆◆H22年度、5-有用植物移植試験及びモニタリング調査計画◆◆



5ー有用植物移植試験及びモニタリング調査の実施状況



手がかりにしたい
アイヌ語

カント

◆カント【kanto】 天,天空,大空,宇宙。

◆カントオロワ ヤクサクノ アランケプ シネプカ イサム
=天から役目なしに降ろされたものは一つもない

+++『萱野茂のアイヌ語辞典』三省堂より+++

+++萱野茂『アイヌ歳時記』平凡社より+++

＜ 地域文化調査業務の成果概括 ＞ 2010(平成22)年度

業務分野		目的／課題	業務項目と想定成果（目標とする状況・物品）	A◆成果の概要、B◆その特徴、C◆意義・課題
1	精神文化保全対策に関する調査	●精神文化の保全対策に必要な現地調査を実施する。また、調査内容について、地域の関係者の意向を確認し、結果をとりまとめる。	◇現地調査→保全対策の提案書、設計図書・工程表・関連データ ◇意向調査→ヒアリング開催と結果集約・分析 ◇調査結果取りまとめ→報告文・図版	A◆現地調査などにより、精神文化保全対象地に関してこれまで蓄積した情報を拡充した。その成果を「イオル文化大学」「博物館セミナー」などを通じて普及するよう試みた。 B◆「意向調査」に関しては、道路・橋梁工事の進展により実際に生じた対策上の問題に即応して、当事者性の強い関係者の意向・意志確認を先行しつつ、調整の役割をになった。儀礼的行為について、その円滑な実施を図るべく、準備や支援の作業をしない、有意義な「試行」の機会とした。また、今後の精神文化保全対策に活かすために、一連の協議や「試行」過程等を詳細にとりまとめた。 C◆開発事業に伴って行う精神文化保全に関するこうした試みは、従来の文化研究・振興の諸活動には例がほとんどなく、今日的継承のあり方の貴重な先行例となり得る。
2	生物の生存環境現地調査	●アイヌ文化に有用な植物の具体的な保全対策案に基づき、優先度を考慮し、詳細な整備計画を策定する。	◇植生保全計画策定→計画書と設計図書・工程表・関連データ ◇調査結果取りまとめ→報告文・図版	A◆前年度までに取りまとめた調査成果と保全対策の考え方をふまえてS-05区域における「植物保全整備計画」を作成した。 B◆これは、検討会で確認された「主として展示を目的」「主として増殖を目的」という二つの方向性の内、「主として展示を目的」に重きをおいた計画である。「人間の一生と植物の関わり」を全体の軸にしつつ、儀礼・生活・食用・薬用などのテーマを組み合わせた展示シナリオとなっている。 C◆地域住民が主体となった伝統的な植物利用と分布に関する調査を基礎にして、住民たち自身が主体となって保全整備計画を作成し、本格的な実行段階にいたっているという点で画期的である。
3	(1)生活文化現地調査 川洲畑現地調査	●アイヌ文化期にかつて行われていた栽培方式(川洲畑)について、栽培様式を伝承する際の基礎資料とするため、試験適地を選定し栽培試験を行う。試験結果に基づき生育状況を把握しデータ蓄積を行うと共に、収穫物を利用したアイヌ文化期の食事など、当時の生活様式の再現を行い調査結果を取りまとめる。	◇現地調査→調査を踏まえた実施詳細計画・工程表 ◇モニタリング調査→モニタリング経過のデータと分析 ◇食文化再現調査→食文化の再現(試食会開催、レシピ作成・公開) ◇調査結果取りまとめ→報告文・図版	A◆地域における伝統的農法の一つであった川洲畑について、4箇所の試験地を設けて試行し、過去3年間の取り組みの蓄積に加えてこの農法継承のための基礎資料を拡充できた。 B◆文献や聴き取りなどによる知見と関連づけて、往時の生活文化や自然環境とそれらの変遷を把握する作業にも並行して取り組んできた。イメージ図や年表などを通じてその成果を示した。また、収穫物などを利用して伝統的食文化の再現を試み、あわせて今日風な料理へのアレンジも多様に試行した。 C◆こうした栽培試験の継続が、栽培方法に関する知見だけではなく、伝統的生活文化全般とその環境に関する情報を集積する場としても有効で、実験民族(民俗)学・考古学・生態学の観点からも効果的な取り組みとなっている。
	(2)生活文化現地調査 伝統的漁法についての調査	●アイヌ文化期にかつて行われていた伝統的漁法について、伝統的漁法を伝承する際の基礎資料とするために、伝承試験を行い、試験結果を取りまとめる。	◇試験地事前整備→試験地絞り込みと周辺環境の点検・整備 ◇実証試験→漁具作製、記録の保存・分析(モニタリング)とマニュアル化 ◇食文化再現調査→食文化の再現(試食会開催、レシピ作成・公開) ◇調査結果取りまとめ→報告文・図版	A◆サケの特別採捕をはじめ、伝統的漁法を実施するための諸手続や現地環境整備などに、関係者・機関が連携して取り組み、伝承試験を実現できた。 B◆これを通じ、川漁の道具や方法に直接関わるだけでなく、行政的対応のノウハウもふくめた伝統的漁法実施の基礎資料が整い、今後の円滑な展開が期待できる状況になった。 C◆儀礼用のサケ特別採捕だけではなく、サケ・マス以外の魚種もふくめた伝統的漁法について法規上・手続上の諸問題をクリアできたことの意義は大きい。また、外向きの大がかりのイベントではなく、地域古来の家族・小集落単位における生活儀礼という想定で再現などを試みたが、そうしたこだわりがあったがゆえに得られたと思われる知見も多く、地域の伝統を深く探る上で有意義な取り組みとなった。
4	地域文化保全対策調査	●これまでの調査結果を基に地域文化保全対策普及方策として活用できるプログラム、視聴覚資料等を作成する。また、それらを用いて関係機関等(教育機関・自治体関係者等)を対象に保全対策普及のための試行調査を実施し、意見・感想等を収集して調査結果を取りまとめる。	◇保全対策普及試行調査→試行と結果分析 ◇意向調査→意見・感想等の集約と分析 ◇地域文化保全対策普及プログラム作成→プログラム・資料の作成 ◇映像資料→映像コンテンツ作成と活用例提示 ◇調査結果取りまとめ→報告文・図版	A◆これまで蓄積されてきた成果を基礎に、その活用・普及を図るための取り組みを、地域の学校との協力により深化させ、拡充させることができた。これを通じて、中学校の各学年ごとに汎用性あるプログラムと視聴覚資料を作成できた。また、アイヌ協会平取支部や二風谷自治会との協議などを通じ、地域への普及、住民との協力・協働を本格化する足がかりを築いた。 B◆住民であり、調査者でもあるスタッフが、地域の学校教職員との協力により、調査成果を活かした特別授業を試行した。事前・事後の協議、意見・感想の把握などを丁寧に行い、取り組みをより効果的なものとした。 C◆アイヌ文化に関する学校における授業実践の分野で、調査等による最新の知見を活かしながら、担い手(文化継承&調査保全)自らが行う効果的なスタイルを新たに確立しつつある。
5	有用植物移植試験及びモニタリング調査	●これまでの調査結果・計画に基づき、有用植物の移植試験及び播種栽培試験を実施する。試験の結果を踏まえ、有用植物の種ごとの移植マニュアル・植物栽培マニュアルを作成する。また、移植及び播種の状況(既に実施している有用植物含む)を確認するためにモニタリング調査及び試験地の整備作業を行うとともに、次年度以降のモニタリング計画案(モニタリング頻度・項目)を取りまとめること。なお、試験実施する種については、調査職員と協議の上決定する。	◇移植試験事前準備→試験地絞り込み周辺環境の点検・整備 ◇移植試験地整備作業→周辺環境の点検・整備 ◇移植試験(木本/草本)→試験(未実施種中心)過程記録 ◇移植試験モニタリング→結果分析、マニュアルの補充 ◇栽培試験事前準備→試験地絞り込み周辺環境の点検・整備 ◇播種栽培試験→試験(未実施種中心)過程記録 ◇播種栽培試験モニタリング→結果分析、マニュアルの補充 ◇調査結果取りまとめ→報告文・図版	A◆伝統文化の観点から有用性の高い植物群について、種ごとの、あるいは育成方法ごとのマニュアルを作成し、試行・モニタリングを積み重ねながら、その充実を図った。また、試験地の整備も行き、今後に向けて保全対策の基盤を拡充した。 B◆マニュアルはさまざまな経験、試行錯誤を経て体裁・内容が充実しつつあり、利用目的に応じて編集したパンフなど、多様な形態での情報提供、成果活用が今後は可能となってきた。本年度は、イオル整備など関連諸事業での活用を想定した冊子を試作し参考に供した。 C◆伝統文化の観点から有用性の高い植物の育成については、系統性・継続性をもった包括的な取り組みが行われた事例が他にほとんどない。そうした状況のもと、地域住民であり、文化継承の担い手でもある人たちが自ら調査と試行を重ね、それを踏まえて、まず何よりも今後の自分たち自身の作業にとって手引きとなり、関連事業に従事している人たちにとっても参考となるマニュアルなどが形になりつつあることの意義は大きく、さらに充実を図りたい。